



松浦常雄議員

## Q町の幼児の保育・教育を どのように見直しするのか

### A小学校の適正配置と 連携して見直しをする

**問** 今年の6月議会の一般質問で私は、本町では保育所の待機児童が十数名いること、幼稚園に入る年齢の幼児が多数保育所に入っていることが、保育所の待機児を生む要因の一つになっていることを指摘した。

**町長** 将来の国見町の幼児の保育・教育については、

小学校の適正配置と連携して進める考えだ。小学校を藤田小学校1校に統合し、2つの幼稚園を1園として現在の森江野小学校を活用したい。幼稚園は3歳から5歳児とし、常設保育所は0歳から2歳児を対象に実施したい考えである。

**問** 季節保育所、常設保育所、幼稚園の見直しを行うには、強いリーダーシップを発揮できる人をトップに

据え、3つの部署の垣根を越えたプロジェクトチームの下に計画を作り、実施することが必要であると思うが、町長の考えはどうか。

**町長** そのようにしなければならぬと考えている。



子どもは町の宝（藤田保育所）

## Qいじめ等の把握と指導は どうなっているか

### A早期発見と早期対応に 努めている

**問** 今年の十一月に沖縄県でいじめによる中学生の死亡事故が発生した。このような痛ましい事故を発生させないためには、常に児童生徒の状況把握に努め、適切な指導をすることが必要である。

**町長** 本町では、いじめの調査はどのように行っているのか。

**教育長** 年に2回、町の小中学校全部におけるいじめについての調査を実施している。全体を把握して適切な指導を行い、また、各

学校では日常の観察、相談を通じていじめの早期発見・早期対応に努めている。

**問** 全国、県内のいじめの調査の結果はどのようになっているのか。

**教育長** 福島県では昨年は小中高で計299件が報告されている。多いのが、冷やかしのからかいが多く、携帯電話やインターネットでの誹謗中傷なども心配されていたが、これも半減しており、成果は上がってきている。